



カタツムリはどうして^{あめ}雨が^でやんだら出てくるの

やす^{やす}んでいたものも^{かつどう}活動をはじめる

カタツムリは、しめった^{かんきょう}環境が^す好きです。乾燥した^{かんそう}場所には^{あわ}現れません。乾燥したり^{かんそう}気温^{きおん}が低下したりすると、物^{もの}かげにかくれます。乾燥^{かんそう}が^{はげ}激しいと、殻^{から}の入り口^{いぐち}に^{まく}膜をはって^{きゆうみん}休眠します。湿度^{しつど}があるほど、^{うんどう}運動は^{かつぱつ}活発になります。

雨^{あめ}でしめり^け気がよくなると、活動^{かつどう}をやめていたカタツムリは、膜^{まく}をやぶり、^{ふた}再び^{かつどう}活動しはじめます。

雨^{あめ}が上がると、カタツムリ^あが多く^{おお}見られるようになるのは、活動^{かつどう}が^{かつぱつ}活発になること、^{やす}休んでいたもの^でまで出てくるようになるためです。

あめ^{あめ}なか^{なか}でも^{かつどう}活動している

雨^{あめ}上がり^あに出てくるといより、雨^{あめ}上がり^あに人間^{にんげん}のほうが外^{そと}に出て、カタツムリ^での^{かつぱつ}活発な活動^{かつどう}を目にするというのがほんとうでしょう。カタツムリは、雨^{あめ}の中^{なか}でも^{かつどう}活動しています。

(監修・中山 周平)

